

令和6年度 第2回 我孫子市水道事業運営審議会

会 議 報 告

日時：令和6年11月19日(火) 午前10時～12時

場所：水道局庁舎3階 経営会議室

出席委員：（委員名簿順、敬称略）

林 健一	庄司 武史
麻生 美香	岡田 真弓
佐藤 一明	遠藤 洋子
園 比佐志	鈴木 登
鶴岡 亜弥子	

※委員10名中、9名が出席のため、審議会は成立した。

出席説明員：水道局長（古谷 靖）	経営課長（土屋 弥世）
工務課長（川村 憲司）	給水課長（住安 巖）
工務課主幹（山下 大吾）	経営課長補佐（洞毛 秀男）
工務課長補佐（水谷 克彦）	

事務局職員：経営課係長（綱川 泰章） 経営課主任主事（湯下 詩織）

会議公開の状況：公開

傍 聴 者：無し

【議事内容】

1 開 会

(1) 我孫子市水道局長挨拶

2 議 題

(1) 諮問事項

林会長の議事進行により諮問事項2件について審議を行った。

諮問事項1 令和7年度我孫子市水道事業（案）について

・資料に基づき、事務局より説明。

【審議結果】

委員からの質疑応答の後、採決を行った結果、異議なく承認された。

諮問事項2 我孫子市水道料金改定計画（案）について

・資料に基づき、事務局より説明。

【審議結果】

諮問事項2については、現在業務を継続して行っており、審議継続とした。

【質疑応答の内容】 （凡例…◇意見・質問 ◆回答）

◇岡田委員

有収率向上の取組みとして衛星画像解析と漏水の監視システムを導入するとあるが、どのようなものか。得られた情報をもとに、今後どのように保守修繕していくのか。

◆山下工務課主幹

有収率向上のための新しい取組みとして、人工衛星からの衛星画像を取得し、地下漏水の原因が水道水か水道水でないかを把握できる先進技術を導入しようと考えている。半径100m単位で、漏水可能性エリアを可視化し、そこに監視システムを設置してさらに漏水箇所を特定する。国の上下水道DX推進事業にエン

トリーをしており、令和 7 年度にこの衛星画像の解析と漏水監視システムを組合わせた事業を行って、令和 8 年度にそのデータを基に、将来的な更新計画を作成していきたい。

◇岡田委員

令和 8 年度以降で、どういう計画を立てていく予定か。

◆山下工務課主幹

現在、国交省からの号令により全国の水道事業体で上下水道耐震化計画を 5 ヶ年計画で策定することになっている。これと我孫子市の更新計画と合わせて、バランスを取りながら進めていく。

◇佐藤委員

基幹管路の耐震化率は令和 10 年度には我孫子市は何%になる想定か。

◆山下工務課主幹

令和 5 年度末の 46.5%から、令和 10 年度で 51.6%の目標を設定している。千葉県平均との差を縮めるため、積極的に交付金を活用しながら耐震化工事を進めていきたい。

◇佐藤委員

無効水量が増える要因と漏水に対する対応の仕方について聞きたい。

◆山下工務課主幹

無効水量が増える要因は、管の老朽化による漏水が考えられる。地上での漏水は、迅速に修繕して漏水を食い止めるが、地下漏水は、なかなか発見できないため、今後衛星画像と監視システムを組み合わせた技術を取り入れていく。先進事業体への行政視察なども積極的に行っており、衛星画像を取得した後の展開等も協議を進めている。

◇佐藤委員

衛星画像の技術を取り入れている事業体はどれくらいあるのか。また、東京都や大都市では使っていないのか。

◆山下工務課主幹

我孫子市の近隣の事業体では事例がなく、衛星画像解析は福島県の福島市や

会津若松市で導入されている。東京都は、衛星画像を利用しているかは不明だが、水道施設の仕切弁にセンサーを設置して、その音響や振動から漏水位置の特定を行っている。当市も衛星画像で、漏水可能性範囲を可視化して、さらにその詳細な絞り込みをする際に東京都が行っているものと同じシステムの導入を考えている。

◇佐藤委員

給水人口や給水量を増やす取り組みは行っているか。

◆土屋経営課長

水道の新規加入者を増やすため、水道を使っていない人が地図上でどれくらいいるのか、住宅地図から水道未使用者をピックアップする作業を昨年度行った。新規の場合、水道を引込むには申込負担金の他に多額の工事費がかかるが、管路更新工事の際に合わせて加入すると工事費がある程度抑えられる。「今、申し込むと通常より、安い費用になりますよ」というアプローチを行い、今年度1件給水の申込みがあった。

◇林会長

組織体制について、将来的な技術職員の養成あるいは採用はどのように考えているか。

◆山下工務課主幹

今年度、水道局の施設内にバルブ操作訓練施設を設置し、局内での教育訓練を強化しながら、事務職員も工事の現場に出て維持管理を行っている。市の人事当局に対しては、技術職員の配置を強く要望しているが、電気系統や土木系統の技師の人材はなかなか応募がない状況であり、引き続き、要望を行っていく。

◆古谷水道局長

現在技術職員が3人しかいないため、民間の自己施行工事と同様に、デザインビルドといって設計・施工を一体で同一業者に行ってもらい、技術職員の労力を減らしていこうとしている。

◇鈴木委員

デザインビルドの場合、金額はどうやって決まるか。

◆山下主幹

デザインビルドにかかる金額は1m当たりの金額を概算で計上し、その工事設

計図書の中に設計図面作成の経費も入れる。受注者が決まったら、受注者が試掘調査をして既存管の埋設位置を確認し、配管の図面を作って、発注者の承諾を得て工事を進めていく。その後は、受注者の責任において、調査しているため、変更はほぼないと想定される。

◇鈴木委員

マンションを建てた場合、親メーター1つの場合と、各世帯にメーターを付けるのとではどちらが多いか。

◆住安給水課長

各部屋にメーターを設置して、賃貸でも分譲でもお住まいの方に水道料金を請求する方が多い。

◇庄司委員

広報や市民の皆様の理解を得る事業は、予算の中のどこに盛り込まれているのか。eモニターアンケートの結果をみると、市民は節水の意識があり、環境にも配慮しているのに何で料金が上がるのかという、感想を持っているように思える。広報などの情報提供で、水道収益の減少を周知していかないといけないと感じる。

◆土屋経営課長

今回お示しした予算については政策的なものなので、広報については載っていないが、広報紙は毎年5月と11月に年に2回発刊しているものを、来年度4回行う予定。市民に知っていただく機会を多く設けなければいけないことはeモニターアンケートの結果を踏まえて大切なことと認識したところです。アンケート結果を参考にして、広報紙の中でわかりやすく説明するというのを念頭にやっていきたいと考えている。

◆古谷水道局長

市民としては、自分たちは決して悪いことしてないのに、料金を値上げされると感じているのではないかという視点は初めて聞いたご意見なので、北千葉広域水道企業団の水を受水している市で構成する団体の会議で、他の自治体に意見を聞いて勉強したいと思う。

◇林会長

水道局で発行している「水道ハンドブック」について、水質の問題等は細かく載っているが、水道水を作るためのコストについての記載がほとんどない。高度

浄水処理にかかるお金や、生産原価のようなものを強調していくことが必要だと感じる。

◇園委員

e モニターアンケートの結果から感じることは、市民の節水意識は、もちろん建前としては天然資源を守るのもあるかもしれないが、一番は家計を守っていくために本音だと感じる。最後の質問で、必要な分だけ水道料金を値上げして着実に対策を進めるが 20%、水道料金を若干値上げして可能な範囲で対策を進めるが 48%、合わせて約 7 割が賛同されているところに違和感があり、これだけ家計費を何とか抑えたいという意識の中でこの質問を上げられて、本音で答えるかどうか疑問。このアンケートは仮に 30%の料金改定の可能性を示しているか。

また、諸々の資料の中で、コロナが終わったため需要が減ったとあるが、コロナは特需であり、あまりコロナを考慮しないで料金改定に向けて説明した方が良いのではないか。

◆土屋経営課長

コロナ禍では、住宅地が多い我孫子市は在宅勤務等のおかげで、特需のように水の使用量が増えた。やはりこれは、一時的であり特別なことなので、水需要の減少を現実的に受け止めて計画を立てていかなければいけないと考えている。改定率 30%という数字はあくまでも経営戦略の中での試算で、まだ決まっているものではない。水道法により、昔から安く豊かな水を提供することを念頭に、将来の子どもたちや孫たちに向けて、同じサービスを継続することを目的としている。水質を守ることも工事をする 것도、料金の適正化も、全て将来の人たちに同じサービスを継続するための手段である。皆様に丁寧に説明しながら、必要な料金、必要な経費を算定していきたい。

◆古谷水道局長

水道事業体における最終的な目標は、今のサービスを 50 年 100 年先にも継続していくことだと思う。今、我孫子市水道局は 29 年ぶりに料金の適正化を考えている。今までは市民生活を守るために、料金改定をしないように管路や施設の更新をしないで、壊れているところを部分的に修繕してきた。それによって内部留保資金が減っているため、新たな財源を確保するためには、補助金を取りに行くしかない。

しかし我孫子市は今、料金単価が県内でも 4 番目に安いこともあり、国の補助金の交付対象となっていない。現在、国は借金が多く税収が上がっておらず、我孫子市民が税金を払って税収を上げても、我孫子市水道局のために使ってく

れるかを考えると、水道料金として各自で払ってもらう方が、確実に水道事業に投資ができると考えている。そのため、上げ幅を大きくしようとは決して思っておらず、今の基本計画が令和10年度までなので、令和8年から令和10年の3年間でいくらかお金が必要なのかをしっかりと精査して、適正な水道料金になるよう検討していく。水道料金の適正化については、国から3年から5年の間で適正な価格を算定し検証することが求められている。令和11年度以降の水道料金については、令和8年から令和9年にはもう1回見直す。

◇林会長

9月14日の朝日新聞で、今年度32都道府県82事業者が、水道料金改定業務を始めなくては、今後の持続可能性が担保できないとの記事が全国報道された。我孫子市においても、水道使用者に水を作るコストがどのくらいかかっているのか、またこのまま料金を据え置くことは、災害時に我々が一体どういうリスクを抱えてしまうのか、その辺りをいろんな媒体を使って正しく市民に伝えて、必要性を理解してもらうことが必要。今日、地球規模の気候変動という大きい問題の中で渇水のリスクもあり、水道事業を全般的にどのようなものとしていくか、さらに議論が必要ではないかと思う。

◇園委員

水道管路更新工事について、地区の選定基準を知りたい。

◆山下工務課主幹

塩化ビニル管又は普通鋳鉄管は、地震に弱い管であるため、この2種類が多く埋設されている地区をターゲットに更新を行っている。今年度どの地区を工事するかについては、広報紙及びこの水道などで、アナウンスしている。

◇園委員

病院や避難所があるエリアを優先的に更新しているということはあるか。

◆山下工務課主幹

病院や避難所に集中して更新は行ってはいないが、今後、国の号令により策定する上下水道耐震化計画は、避難所、病院、福祉避難所に向かっている水道管の耐震化率を向上させる計画なので、そこに注力しながら市内の管路更新と併せて行っていく。